

|         |                                                            |
|---------|------------------------------------------------------------|
| 氏名      | 森 田 実                                                      |
| 学位の種類   | 医 学 博 士                                                    |
| 学位授与番号  | 甲 第 235 号                                                  |
| 学位授与の日付 | 昭和42年 3 月31日                                               |
| 学位授与の要件 | 医学研究科内科系内科学専攻<br>(学位規則第 5 条第 1 項該当)                        |
| 学位論文題目  | 胸腺の免疫学的機能に関する研究<br>第1報 牛血清アルブミン感作実験<br>第2報 胸腺細胞によるラント病発生実験 |
| 論文審査委員  | 教授 平 木 潔    教授 小坂 淳夫    教授 水原 舜爾                           |

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

胸腺が生体の免疫反応に如何なる役割を果しているかを探求する目的で 1) 牛血清アルブミン感作実験 2) 胸腺細胞によるラント病発生実験を行い、検索方法としては胸腺摘出術、種々の血清抗体価測定法、超遠心分析法、皮膚遅延反応、及び蛍光抗体法を用い、さらに抗体保有細胞の形態学的同定を組織培養、位相差並びに電子顕微鏡、蛍光抗体法を組み合わせ検討した。その結果、生後24時間以内海猿胸腺摘出は組織における抗体産生細胞の減少、血清抗体産生能、皮膚遅延反応を低下せしめる。胸腺内の抗体保有細胞としては淋巴細胞が有力であり、他の淋巴組織並びに反応部皮膚でも、淋巴細胞は抗体保有細胞として大きな位置をしめている。次に種々の純系マウスの組み合わせでラント病発生を試みRⅢ $\leftrightarrow$ D $\beta$ 間で高率に発生した。又移入細胞を採取する年令によってラント病発生率に差があり、新生児胸腺細胞では発生せず、生後2週迄次第に発生率は上昇し、30日以後では100%の発生率をみた。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、胸腺の免疫学的機能に関する研究であり、特に従来十分解明されていなかった胸腺細胞の抗体保有能に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者、は医学博士の学位を得る資格があると認める。